

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272200799		
法人名	有限会社グループホームさんぼみち柏		
事業所名	グループホームさんぼみち柏		
所在地	千葉県柏市布施新町3-28-20		
自己評価作成日	平成22年2月28日	評価結果市町村受理日	平成23年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成12年に柏第一号のグループホームとして開設以来、家庭的な雰囲気大切に、日々の生活の中でいつも笑顔は見られる様に寄り添うケアを心がけ安心して穏やかな生活が送れるように支援しています。地域との関わりある生活を送るため町内会への参加地域ボランティアの方々の定期的な支援を頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地の中にある「グループホームさんぼみち柏」は、一般住宅を改修した造りとなっており、入居者にとって馴染み深く、地域住民にとっても親しみやすい施設となっている。一般家庭の取り組みを基盤とし、調理・掃除等の日常生活活動出来る限り入居者と共同で行っている。天気の良い日は必ず布団を干しており、入居者の衛生管理や気持ち良く過ごせるよう配慮している。職員は入居者に寄り添う介護を心掛けており、家庭に近い造りを活かした明るくアットホームな施設運営を目指している。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyu.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成22年3月20日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げスタッフ御利用者御家族がいつでも見れる場所に提示しています。ミーティング時などに理念の確認及び共有化を図り、理念を意識した支援に努めている。	「安心して暮らせる生活の維持・残存能力を引き出す環境作り・尊厳ある生活」を主眼とした施設独自の理念を掲げている。事業所内に理念・運営方針を掲示していると共に、会議にて理念の確認を行い、職員へ周知している。日頃から職員に対し、理念を意識するように指導しており、理念に基づくサービスの提供に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加させて頂き、散歩の時に声を掛け合って日常的に交流している。又、地域のボランティアの方々は定期的に入り交流している。	日頃から地域住民とは挨拶を交わす関係作りがなされており、交流が図られている。地域に溶け込んだ施設運営を目指しており、地域行事への参加・地域の傾聴ボランティアの受け入れ等を積極的に行い、密な関係を築いている。また、施設の避難訓練を実施する際、案内を配布すると共に、地域住民にも参加してもらい、非常災害時・緊急時における協力の呼びかけを行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア活動に参加し、認知症に関する知識をアドバイスしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の活動報告や現状報告を行い、地域理解の促進を図っている。意見交換を行いサービスの向上につなげている。	家族・地域包括支援センター職員・民生委員・自治会長などを構成員として、年3回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告を行い、施設の理解促進に繋げると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に活用している。また、非常災害時やボランティア受け入れに関する情報交換を行った結果、地域との協力関係の強化・入居者の生活の活性化に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員と直接会ってアドバイスを受けるようにしている。	市に対して、日頃から相談や報告等を随時行い、密な連携が図られている。市が主催する認知症ケア研修に参加する等、市と共同でサービスの質の向上を図ると共に、市のグループホーム連絡会にて、市と意見・情報交換を行っており、市との協力体制が構築されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束はしないケアを実践している。建物の構造上目が行き届きにくい死角になっているので安全確保の為に一部施錠をしている	身体拘束排除における施設の方針を掲げると共に、マニュアルの整備や研修の実施を行っており、身体拘束排除における意義を職員全員が理解している。施設周辺の環境を踏まえ、防犯・安全面を考慮し、玄関の施錠をしているが、家族に対し説明を行い、同意を得ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々職員と話し合いをし、防止の徹底に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に後見人が居るので情報を得たり生活保護者にも活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い入居時の不安や疑問点にお答えします。改定のある時は家族に連絡を取り、不安のない様話し合い了解を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の際に家族の要望を聞き、又、日々のケアにおいて利用者の意見を聞き取りながら今後の運営に反映させている。家族との信頼関係を作りどんなことでも話せるようにしている。	家族の面会時や電話連絡時に直接意見・要望を確認している。また、定期的に意向調査を行い、入居者の要望や思いを確認している。挙がった意見・要望等においては、申し送りや会議にて周知・検討し、適切な改善に努めている。施設行事に家族を招待し、意見の言いやすい関係作りに努めている他、些細な事でも何かあればすぐに連絡するよう心掛け、家族と職員が情報を共有できる体制を整えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やミーティングの際、意見を聞く機会を設け、反映出来るよう努めている。	定期的に会議を実施しており、職員の意見・提案等を確認している。会議では、全ての職員が意見を出しており、密な話し合いが行われている。また、会議録を回覧し、職員全員で内容を共有している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	用意はあり職員が個々のレベルアップ意識付け努力してもらい職員から条件を活用してもらいたいと思っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会は作り特に外部研修に参加し視野を広げて欲しいと促すも積極さがやや不十分		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会の加入しており定例会議等で情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より家庭訪問(合意が得られた場合)を行い本人家族の希望を十分に聞き取り、不安のない様努めている。これまでの境涯暦を尊重し、安全安心に暮らしていける場をとる様、じっくり聞く機会を作り努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族と不安に思われていること、困っていることなど細やかな所まで十分時間をかけ話し合うよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者御家族に対して今何が必要なのかを模索するため、十分な聞き取り、話し合いを行う。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の知恵・知識を教えていただき長年者として尊敬し支え合って共に生活出来るよう支援している。洗濯物をたたんで頂いたり談笑しながら共に暮らしている意識を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お花見、コンサートなどに一緒に参加する等、協力して頂いている。来訪時、細々な面で話し合いを行い希望や要望を伺う。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の訪問はごくまれだが来訪した際はまたの来訪をお待ちしているとの声を伝えている。訪問の際にはご家族に了解を得た上で。	馴染みの人の訪問や手紙のやり取りは自由となっており、馴染みの人との関係継続を支援している。また、家族参加の行事を企画・実施しており、家族との関係継続にも配慮している。地域住民との交流や居心地良い施設作りに努めており、入居者にとって馴染みの場が施設となるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の行動を細やかに観察し利用者同士の相性や人間関係を把握し席替えやレクリエーションに活用している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や来訪の際、気持ちよく歓迎する。困った事があれば相談に乗るよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人としっかり向き合い話を聞き何を望んでいるかどうして欲しいかを把握し希望に添える様している。また御家族に情報を頂いたりし努めている。	入居時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認し、記録している。原則的に、本人の自宅を訪問し、生活場面を見ながら確認を行い、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は定期的に意向調査を行い、入居者の希望や思いを確認すると共に、日々の会話の中から意向を汲み取り、本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報を詳しく、御家族御本人に頂くようにし、把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の個人記録排便票を制作し、一人一人の生活リズムを把握出来るよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族からの希望、意見の聞き取り、ミーティングでの意見を取り入れ、御本人に最大の介護が出来る様介護計画を制作している。また、心身の状況変化等により、随時、計画の見直しを行う。	本人・家族の意向を基に、職員全員で検討し、介護計画を作成している。定期的に、会議にて一人ひとりの生活状況を情報交換し、入居者のニーズに合わせた介護計画の作成に努めている。また、必要に応じて介護計画の見直しを行っており、入居者の現状に即した介護計画の作成を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の個人記録を取り、職員間の連絡ノートの活用や、ミーティング、申し送りなどで商法の共有をし、実践を見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ個々の希望に添えるよう様、ご家族と相談しながらしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方や民生委員の方々からの紹介で手話、楽器の演奏、傾聴ボランティアの方々に来訪して支援して頂いております。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院を中心として、受診支援や定期的な往診、24時間対応の支援がなされている。急変により通院・往診があればその都度オーナーと御家族に電話連絡し対応している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、希望に応じて職員が通院の付き添いを支援している。定期的に内科・歯科の往診が実施されていると共に、医師といつでも連絡が取れるようになっており、適切な医療支援・緊急時の協力体制が図られている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医と往診を含め連絡は常に取りらせて頂き、助言や対応に備えてもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときは御家族対応になるが情報収集など、常に家族との連絡の中で確認退院後促しも協力はおしまない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族に来訪時、必要に応じて話し合っている。スタッフ共有し、話し合っている。	施設方針として、可能な限り施設で看取る事を掲げている。終末期や重度化した場合には、本人・家族の意向を確認し、職員全員で検討をしながら、施設として出来る限りの支援を行っている。また、必要に応じて、医療機関や他施設と連携を図り、サービスの切り替えが円滑にできるよう協力体制を整えている。	施設方針を明文化し、必要に応じて家族に説明を行う事により、更に入居者・家族の意向に沿った支援が行えるよう終末期に向けた書類の整備を期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時等の対応マニュアルなどで職員研修を通してさらに日常化していきたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜間想定の非常訓練を御近所の方、消防署の方参加の元、年2回行う。グループホーム施設合同の消防訓練研修会に参加。	消防署の協力のもと、年2回の消防避難訓練を行っている。施設内には、消火器・火災報知機が設置されていると共に、非常災害時の連絡体制やマニュアルを施設内に掲示している。グループホーム連絡会にて行われる消防研修に参加しており、非常災害時の知識を身に付けている。	消防訓練や消防研修に参加し、職員は非常災害時の避難方法を心得ているが、今後は、再度避難経路の見直しを行うと共に、棚上の整理を行う事により、避難経路の安全性を更に高めて頂く事を期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の入居者や人前で本人を傷つけないよう言葉掛けに配慮し、本人の人格を尊重しプライバシーを損ねない様研修などを通して対応に気を付けている。	プライバシー保護に関するマニュアルの整備・研修の実施を行っている。特に、排泄や入浴時等には細心の注意を払い、声掛け・介助方法を工夫し、入居者のプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者、御家族を交え話し合いを持って本人の希望にそえる様目を傾け自己決定出来る様支援している。又、言葉に出せるような雰囲気作りに努めている。 (例)白髪染め		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れが決まっているが出来る限り、意向に添う様現状は厳しいが努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意し、清潔な衣類で生活できる様支援している。希望があれば美容院に同行する。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせず楽しんで出来る事を見出して利用者と職員が行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・片付け・調理等を共同で行っている。献立においては、栄養士の職員が作成しており、栄養バランスに配慮した食事提供が行われている。また、行事や季節に応じた特別食の提供・手作りおやつ・外食会の実施等、食に対する楽しみも提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に摂取の状況などを記録している。水分量にちいても毎回スタッフが確認している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、必要な方は介助している。スタッフは磨き残しが無い様チェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつなど枚数表があり、スタッフ全員が把握している。日中、夜勤共に、個人に合せたトイレ誘導を行っている。	排泄チェックリストを活用しており、個々のパターンを把握した上で、声掛けやトイレ誘導を行い、オムツやパッドの使用を出来るだけ少なくするよう努めている。夜間においては、必要に応じてトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘においては、日々の観察を通じて、必要と判断された場合には、医師と相談の上、適切な対応がなされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、調理メニューの工夫。毎日の散歩と運動、排泄の確認などこまめに対応している。困難な時などは医師に相談している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、その日の体調にもよるが、特に希望があれば対応可能(現在は無い)	基本的に週2回と入浴日を定めているが、希望や体調に応じて回数を変更する等、柔軟な支援が行われている。毎日清拭を実施すると共に、必要に応じて、シャワー浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合せた支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用チェック表を作成し、服用の確認を行っている。錠剤が飲み込みにくい人はつぶしたり内服しやすい様にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いせず、各自にあったお手伝い、食事準備、清掃、洗濯物たたみなどをして頂いている。近くの公園に出掛け気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩に出掛けたり、季節に桜、コスモス等のお花見に出掛ける。御家族との外出はおおいに支援している。</p>	<p>入居者の体調・希望に応じて、散歩を毎日実施しており、外出する機会を設けている。定期的に外出行事を企画・実施し、戸外での楽しみを支援している。柏市のグループホーム連絡会にて行われる合同行事に参加し、他施設の利用者との交流も図られている。必要に応じて介護タクシーを活用し、幅広い外出活動を行っている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>トラブル回避の為所持させていない。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>自ら電話したいという要望で無いので家族からの電話を受けるのみ。年賀状、手紙の返事などスタッフが協力して行っている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に清潔に配慮し、季節の生け花や作品、行事などの写真を飾って心地よい様工夫している。</p>	<p>施設は、民家を改修しており、入居者にとって馴染みある造りとなっている。リビングには、椅子・テーブル・ソファ等が設置されており、居心地良く過ごせるよう配慮している。また、行事の写真や入居者の作品を掲示し、明るく楽しい雰囲気作りがなされている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置や皆さんが集まる場から少し離れた所にテーブルを置くなどしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たり、風通しがよく、清潔に心掛け心地よい様工夫している。6畳なので家族同泊希望等あれば状況により可能。	入居者の希望に応じて馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、布団を敷く事も可能となっており、入居者の生活歴に合わせた居室作りもなされている。天気の良い日は必ず布団を干しており、衛生管理や入居者が安心して過ごせるよう工夫がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングの掃除機かけ、廊下の掃除などなるべくして頂き、個人の持っている力を引き出すような支援をしている。場所の表示を分かりやすく表示している。民家の改装型で段差などあるが自宅と環境も似ていて生活感がある。		